

インフルエンザとの同時流行に備えよう!

新型
コロナ
対策

予防習慣の徹底とインフル予防接種を

この冬は新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が心配されています。新型コロナウイルス感染症については症状だけでは区別できません。感染の予防習慣の徹底を図り、インフルエンザの予防接種を受けることが大切とされています。

西宮市保健所は新型コロナウイルス感染症について「私たちは感染拡大と収束を経験しながら、この感染症の性質を把握してきました。身体的な距離の確保やマスクの着用、手洗いなど

西宮市議会議員



かんの雅一まさかず

で感染をかなり予防できることはわかってきました。新しい生活様式を実践し、3密(密閉、密集、密接)の回避をはじめ、毎朝の体温測定や部屋の換気に心がけてください」と呼びかけています。

新型コロナウイルス感染症については、咳やくしゃみ、唾液が1〜2メートル周辺に飛び散り、それを吸い込む飛沫感染、飛沫が付着した部分を触った手指で眼や鼻、口に触れて、その粘膜から移る接触感染がほとんどの感染の原因と推定されています。

これまでの研究や調査によって、マスク着用の重要性が指摘されており、病院の診察室でも患者や医師をはじめとする医療スタッフの全員がマスクを着用していれば、感染リスクが大きく減ることがわかっています。

飛沫や接触による感染については、インフルエンザやノロウイルスの感染経路とも共通しています。

感染症による入院医療や宿泊・自宅療養を終えた人は後遺症が残る場合があっても、さらなる感染源とはなりません。感染者への差別的な



- 1 マスクを着用する
 - 2 こまめな手洗いを励行する
 - 3 3密を避ける
 - 4 インフルエンザの予防接種を受ける
- などの対策をお願いします。

西宮市政報告

かんの新聞

第22号

年4回発行

ジャーナリストの視点で調べる・伝える



元産経新聞記者 保守系無所属

言動をせず、思いやりのある行動をとってください。

厚生労働省によりますと、この冬はインフルエンザワクチンの需要が高まる可能性があることから、過去5年間で最も多い最大約6300万人分のワクチンを供給する予定です。10月26日以降は全ての人が受けられる体制になっています。

市は今後も保健所を中心として国や兵庫県、医療関係者との連携を強め、地域で身近な医療機関などによる相談体制の確保や診察・検査体制を充実させる方針です。

市民の皆様には、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えて自身のみならず、家族や友人の生命と健康を守るために

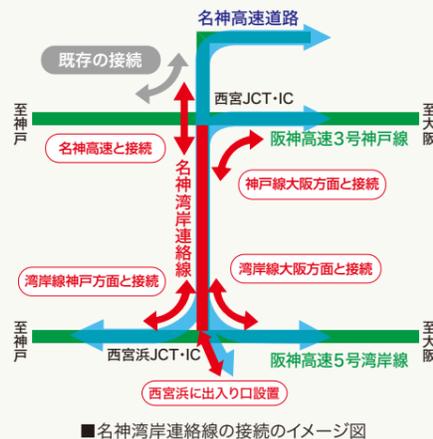
国に対策強化を求める 市が県に回答

環境影響評価準備書への意見 P.M.25への対策検討も要望

市は10月、兵庫県に名神湾岸連絡線に係る環境影響評価準備書に対する意見を回答しました。意見では「最低限の環境基準等を満たすという視点でしか対策が示されていない」として国に対して環境保全の対策強化を求めました。

意見では、連絡線のルートについて「周辺には住居や学校、福祉施設等が位置し、事業実施による生活環境への影響は大きいと考えられる」と指摘。住民への配慮として「事業目的や環境影響などについて、住民に十分な説明を行い、要望・苦情などに適切に対処する」事業実施の段階で積極的に情報を発信し、「丁寧な説明で住民と十分な合意形成を図ることなどを求めました。

特に、騒音や振動については「現況



から大幅に数値が増加しており、学校や住居等が存在する周辺への影響は大きいと思われる」と分析。「事業の実施にあたっては、沿道環境の改善という目的を達成するための複数の環境保全措置を検討し、環境保全目標の確保はもとより、可能な限り環境影響を回避・低減すること」を求めました。

連絡線が南北に縦断することになる今津地域については「連絡線の」供用後においても地域コミュニティが維持できるように、「コミュニティ活動の場の確保に努めること」を求めました。

予測手法が確立されていないことを理由に予測評価が行われていない微小粒子状物質「P.M.25」については「関係機関と連携し、必要に応じて対策を検討すること」を要望しました。

市の意見は市の諮問機関である環境影響評価専門委員会の答申を反映した内容です。県は市の意見や住民からの意見などを勘案して第2次審査意見書を作成し、国土交通省に送付します。国交省は第2次審査意見書に基づき、準備書の記載事項について検討を加え、環境影響評価書を作成します。県は連絡線についての都市計画決定の手続きも進めます。

いつでも電話を!

定期送付のご案内

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの暮らしを直撃しています。感染への不安や体調、仕事、経済的な問題、家庭の問題をはじめ、色々な事情でつらい思いをされている方が多いと思います。悩みを抱え込まないでください。いつでもいいので私に電話してください。一緒に考えましょう。私の連絡先はこのページの下に記載しています。メールやFAXでも結構です。

西宮市政報告「かんの新聞」は年間4回、発行し、南甲子園地区(市立南甲子園小学校の校区など)と周辺地域を中心に各戸配布し、西宮市内に配達する産経新聞朝刊に折り込みとして入れます。それ以外の方、ビラ配布禁止の集合住宅にお住まいの方、確実に入手したい方には定期的に送付します。下記●印の必要事項を記載いただき、お申し込みください。市政へのご意見、ご要望や「かんの新聞」のご感想もお書きいただければ、うれしいです。「かんの新聞」のバックナンバーをご希望の方もご連絡ください。

●「定期送付希望」●郵便番号●ご住所●お名前●ご連絡先電話番号●メールアドレス

はがき宛先 〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101 メール・FAXでのお申し込みは かんのみさかず宛 本紙最下段に記載の宛先まで

言葉の解説

アウトリーチとは何?

英語で「手を伸ばすこと」を意味します。福祉分野では、何らかの理由で自ら相談や支援を求められない人に対し、支援者側から積極的に情報や支援を提供することです。例えば、精神障害者アウトリーチ推進事業では、看護師や精神保健福祉士などの専門職がチームを組んで障害のある人の居宅を訪問し、在宅生活を行うために必要なサービスを提供することを目的に、保健・医療・福祉を踏まえた包括的な支援計画を作成します。



本名:菅野 雅一(かんの・まさかず)

昭和33年(1958年)、神戸市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業。昭和60年に産経新聞社に入社。平成27年1月に退社し、同年4月の市議選に初当選。31年4月の市議選で再選。保守系で政党無所属。「会派・ぜんしん」メンバー。南甲子園自治会副会長。NPO法人海浜の自然環境を守る会副理事長。社会福祉法人真砂ちどり保育園理事長。防災士。

次号は令和3年2月の発行予定です

かんの雅一事務所

〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101

TEL:090-1895-1488 FAX:0798-40-9530

《MAIL》info@kannomasakazu.com

●詳しい政策はホームページへ www.kannomasakazu.com

かんの雅一 検索

かんの
コラム
22
子供たちの主体性が高まる
放課後キッズルーム事業
全小学校に
順次拡大を

南甲子園小学校など “オセロ名人”も誕生

市は放課後に図書室やランチルーム、運動場などの学校施設を子供たちの遊びや学びの場として開放する放課後キッズルーム事業を南甲子園小学校など市立小学校5校で実施しており、子供たちの主体性が高まるなどの成果を挙げています。私は市内の全小学校に順次拡大すべきだと考えます。

南甲子園小の河合純孝校長は事業について「子供たちが自分で決めて遊んだり、学べるのがとても良い所です。子供たちが物事に主体的に取り組むようになりました。異年齢の子供たちが交流して勉強を教え合ったり、見守りスタッフとふれ合い、豊かな人間関係をつくっています」と話しています。



■市立南甲子園小学校＝南甲子園

帰宅せずにそのまま参加

南甲子園小の放課後キッズルーム事業に登録する児童数は10月13日現在、278人。全校児童数は892人ですので、約3割が登録している計算です。平均の参加人数は約60人です。

事業では、授業終了後から午後5時まで図書室やランチルームなどを子供たちに開放。運動場は午後4時半まで利用できます。年末年始や盆休みなどを除く長期休暇中も実施します。

対象は校区内に住む全児童で、利用申込書と保険料年額800円を提出し、登録することが必要です。子供たちは帰宅せずにそのまま参加できます。留守家庭児童育成センターを利用している児童も参加できます。民間事業者に委託し、コーディネーターと見守りスタッフが子供たちを見守ります。

プログラミング学習に熱中

令和元年度から高木北小学校と平木小学校で実施。2年度に南甲子園小や神原小学校、甲陽園小学校の3校でも導入しました。

南甲子園小では、子供たちは放課後、ランチルームの前のテーブルの上に置かれた自分の参加カードをカゴに入れ、リストバンドをはめて事業に参加。ランチルームでオセロや将棋をしたり、図書室で宿題や読書をしたり、運動場で遊びます。

子供たちの間では、オセロで見守りスタッフにも勝つ「オセロ名人」の低学年児童が話題になっています。ある児童は貸し出されたタブレット端末を使いこなし、プログラミング学習に熱中しています。運動場で遊んでいるうちに走るのが速くなった児童もいます。

国家戦略特区の事業を導入

本市における保育所等の待機児童数は4月現在、昨年より92人多い345人となり、全国の市町村で3番目に多い数字になりました。市は深刻に受け止め、国家戦略特区を活用した小規模保育事業を導入するなど、さまざまな事業によって待機児童の解消を図っています。

1～3歳児対象の小規模保育施設を設置

1～3歳児に対することができる特区事業を導入。待機児童が多いにもかかわらず、認可保育所の整備用地の確保が難しい地域にある夙川、越木岩、高木の3園の市立幼稚園の近くにそれぞれ特区事業の小規模保

市立幼稚園の預かり保育を活用

育施設を3施設ずつ整備します。これらの市立幼稚園には、これまでの4・5歳児の人数枠とは別に、新たに各学年20人ずつを対象に午後6時半まで預かる就労枠を設定。特区事業の施設を卒園した4歳児を受け入れる方針です。小規模保育施設は認可保育所と違って、戸建て住宅やマンションの一室でも開設できるため、初期費用が少なく、短期間で整備できます。



■市立夙川幼稚園＝松ヶ丘町

立幼稚園の預かり保育を結びつけることで「3歳児の壁」の解消を図り、認可保育所の新設が難しい地域における1歳から5歳までの保育需要に対応するとしています。令和3年4月から特区事業をスタートさせます。本市の保育所等の入所児童数は4月現在、7921人。市は令和3年度に特区事業や保育所・認定こども園の新設などで新たに504人の受け入れ枠を確保。4年度には新たに678人の受け入れ枠を確保したいとしています。

解消に向け
市が全力

全国ワースト
3位

待機児童問題

市は市民がごみ出しをする際、市が規格や配色などを定めた袋だけの使用を義務づける指定袋制度を導入する方針を決めました。生活系のもやごみ、その他プラ(プラスチック製容器

生活系のもやごみは
令和4年4月から



■指定袋のイメージ図(市提供、※実際のデザインや配色とは異なります)

包袋)、事業系の可燃ごみについては令和4年4月から、生活系の缶・ペットボトル、その他不燃ごみは8年度から始めます。ごみの減量化や分別排出の徹底、

ごみの減量化
などが目的

指定袋制度を導入へ



■兵庫県版認知症チェックシート
問い合わせ先
市地域共生推進課
☎0798-35-3286

市は認知症の早期発見・早期対応に役立つ「兵庫県版認知症チェックシート」の利用を呼びかけています。日常生活に関する質問に回答することで自分が認知症になっているかどうかに気づくことができる仕組みです。チェックシートでは、「最近1カ月以内のことを思い出して回答ください」として「財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなる場合があります」「5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか」「自分の生年月日

早期発見・
早期対応のため

認知症のチェックを！

がわからなくなることがあります」などの質問項目を設定しています。これについて「まったくくない」「1点」、「ときどきある」「2点」、「頻繁にある」「3点」、「いつもそつだ」「4点」といった4つの選択肢から回答する形式。21項目の回答の合計点数が31点以上の場合、「認知機能や社会生活に支障が出ている可能性があります」としています。

チェックシートは市役所本庁や支所、公民館、高齢者あんしん窓口などにあります。県や市のホームページにも掲載しています。

市は「早期に認知症と診断されれば、服薬などで進行を遅らせたり、認知症とともに人生を歩む準備ができます。チェックをして気になることがあれば、かかりつけ医・認知症相談医療機関・高齢者あんしん窓口に相談してください」としています。

収集作業時の安全確保などが目的。袋メーカーが市の指定に従って製造し、「コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの小売店で販売します。価格にごみ処理手数料の上乗せはしません。袋のサイズについては、生活系が45リットル(大)と30リットル(中)、15リットル(小)の3種類。事業系は90リットル(大)と45リットル(小)の2種類。中

身が見えるように半透明の袋にする方針。指定袋制度を導入済みの神戸市や尼崎市などの袋との違いを明確にするため、これらの市の指定袋と異なる色にする観点で色の検討をしています。市は11月25日まで指定袋制度の導入などについてのパブリックコメントを実施し、令和3年3月定例会に制度導入などを盛り込んだ条例改正案を提出します。

県警 入所の障害者を虐待した元職員を逮捕
西宮すなご医療福祉センター／再発防止の徹底を

重度の心身障害者らが入所する障害者支援施設「西宮すなご医療福祉センター」(武庫川町)で入所者を蹴ったり、床に顔を打ちつけてけがをさせるなどの虐待を加えたとして、兵庫県警は10月、この施設の30代の元男性職員を傷害と暴行の疑いで逮捕しました。調べでは、元職員は勤務していた7月、施設内で重度の障害のため寝たきりの状態の50代の男性入所者の脇腹を蹴ったほか、顔を床に打ちつけて右目付近を打撲するけがを負わせた疑い。

市は11月25日まで指定袋制度の導入などについてのパブリックコメントを実施し、令和3年3月定例会に制度導入などを盛り込んだ条例改正案を提出します。

市は立ち入り調査を実施し、この男性入所者を含む入所者10人が元職員から虐待を受けていたことを確認。市の聞き取りに対して、元職員は虐待の事実を認めたとうえで、「仕事が忙しくイライラし、ストレスからやった」と話したとのこと。施設は8月24日付で元職員を懲戒解雇処分しました。施設には医療的なケアを必要とす

る障害者や障害児計178人が入所しています。市は施設に対して第三者委員会による原因の検証などについての指導をしています。本市は7月に障害を理由とする差別の解消などを指す条例を制定したばかりです。市内には障害者や高齢者らのための入所施設が146施設あり、これらの施設の入所者の定員は合計で7369人です。市は今後、各施設への実地指導の中で虐待防止の取り組みについて重点的に確認するとしています。



■西宮すなご医療福祉センター＝武庫川町